

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの定着率は約90%。長音・促音・撥音・助詞(は、へ、を)の習得には個人差がある。 ・音読は、はっきりと大きな声で読むことを意識し取り組んでいる。 ・読み聞かせはどの子も集中できるが、一人での読書には積極的に取り組めない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なひらがなとその文字を使った言葉を繰り返し練習して覚え、100%の定着をめざす。 ・特殊音節の使い方の練習を繰り返す。 ・週に一回図書時間を設定したり、学級に本を置いたり、本にふれる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あのねノート」を活用し、日記や作文を家庭学習に取り入れ、正しい表記の仕方を身に付けさせる。 ・音読カードを活用し、音読に意欲的に取り組ませる。 ・漢字10問テストをくり返し実施し、定着させる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テストの結果から、ほとんどの児童は1年生の漢字は身に付いていることが分かった。 ・2年生の漢字は、新出漢字を1日2文字ずつノートに書いて学習するようにしている。まどめのテストでは90点以上とれている児童は8割ほどだったので、繰り返し学習することで9割を目指す。 ・説明文では、事柄の順序を考えて読み取る力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストは範囲を予告し、家庭でも対策を取るよう呼びかける。 ・「話を聞き取る力」を付けるために国語の授業を中心に、よく聞いてメモを取ることを習慣付ける。 ・説明文を読み解く力が付くように、指示語や接続詞に線を引いて読むよう読み方の決まりを指導し、徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や主語述語を意識した文作りをさせる。漢字を使った短文練習を毎日させて、書くことに慣れさせる。 ・毎日漢字10問テストを実施する。同じ問題を4回続け、確実に覚えさせる。25問まどめテストでは9割の児童が90点以上取ることを目指す。 ・話をじっくり聞く力が付くように、質問する力を付けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み取りはできる児童が多いが、書き取りに関しては定着が不十分である。普段の授業や宿題の中でも、習った漢字を使う習慣が身に付いていないことが気になっている。 ・物語文や説明文の読み取りに課題がある。授業の中で音読では、すらすら読めない児童も数名見られる。また、普段のワークテストの読み取りの活用問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習った漢字を文章の中で、使う習慣を身に付けられるように、文章を書いたら、読み直す時間を設けるようにする。 ・部首に着目して、新出漢字の学習をしたり、習った漢字を使った言葉を発表したり、漢字学習に関心をもてるようにしていく。 ・物語や説明文の読み取りでは、言葉の意味を捉えられるように、意味調べをしたり、文章を丁寧に読むように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の家庭学習できちんと取り組めるように、読むことになれさせていく。 ・モジュールの時間や朝自習のなどで、漢字小テストの再テストを行い、定着を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読みの平均正答率が63.3%と区平均よりも10%ほど低い。既習済みの漢字を忘れてしまっている。 ・字数を指定された作文が書けていない。空欄の児童や字数を大幅に余らせている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の新出漢字と並行して既習済みの漢字を復習する。 ・字数を指定して感想を書かせたり、振り返りを書かせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末に宿題として出している「作文帳」の頻度を2回に増やす。 ・漢字10問テストをくり返し実施し、定着させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習熟に関しては、小テストを使って補足練習を行ってきたが2割の児童は十分な結果が得られなかった。 ・説明文の読み取りに関しては、考える手順を明示し、時間をかけて指導した。物語では、登場人物の関わりや構成を丁寧に指導したが、心情の変化については十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続語、指示語、文末表現に注意をさせる。また、要約をする、見出しをつける活動等を取り入れ、読み取る力を伸ばす。 ・作文指導においては、教材文の優れた構成を学ばせると共に、構成を指定して短作文を書かせる活動などを授業に取り入れて、「書く」活動に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に2～3回、漢字小テストを行う。また、漢字に対する興味を高めるために、魚偏の漢字や木偏の漢字、虫偏の漢字などのクイズや熟字訓クイズのように、出題の工夫をする。 ・漢字テスト直前にたしかめ時間を設け、十分習得できるようにする。 ・常に手元にマイブックを置くとともに、読書タイムや学習の隙間時間など本を読む機会を増やし、一人で静かにじっくりと読む習慣をつける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字書き取りの練習が不十分だった。ドリルを使った漢字小テストを定期的に行うことができなかった。 ・物語では、登場人物の関わりや構成を指導してきたが、心情の変化についての指導が十分でなかった。 ・文字数を指定しての文作りの指導が十分でなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8割以上の児童が漢字テストで90点以上とれるように、毎週小テストをする曜日を決めて、見直しをもって学習に取り組めるようにする。 ・構成や字数、内容などを指定した短作文を書く活動を取り入れ、条件に沿った文章を書くことに慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の小テストで間違った漢字については、練習を宿題とし、定着を図る。 ・テストが早く終わった場合や隙間時間を使って、魚偏、虫偏、金偏の漢字クイズ、熟字訓クイズ等を行って、漢字への関心を高める。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習への興味関心は高いが、資料から必要な情報を読み取る力が不十分である。また、読み取ったことをノートにまとめたり、発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材などを活用し、実際に見に行くことができない内容も理解できるようにしていく。 ・調べたり、考えたりする時間を十分に取って、発表の場を設ける。新聞やポスターなど様々な形式で分かったことをまとめさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や他教科の学習とも関連させ、資料を読み取る力を伸ばす。 ・図鑑、新聞、インターネットなど様々な教材・教具を活用して調べ学習を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストの結果から、どの単元も資料の読み取る力の定着が不十分である。 ・学習したことを自分の生活で生かすためにはどうしたらよいかを問われる問題では、具体的に自分がどうしたいかを記入できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時にはグラフや資料を提示し、その資料から理解できる事を書くという時間を毎週設ける。 ・単元の終わりには、学んだことを自分の生活にどのように生かしたか振り返りさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取り、自分の考えを表現する力を伸ばすため、よい気付きや考えを紹介する。 ・副教材「白地図ワーク」を活用する。朝学習でも取り組み、気付いた事を話し合う機会を設ける。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集を使った授業と、単元の終わりに学習した内容を自分でわかりやすくノートにまとめさせる方法を取り入れた。意欲や資質能力に個人差があり、同じ学習内容でも習得事項に差が出て、調べる情報量やまとめの内容には大きな差が表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心を高めるために、課題づくりや資料の開発・提示方法などを工夫し、学習がより深まり定着するようにする。 ・表やグラフ、写真や画像などから読み取ったことをお互いに交流し合うことで、友達のよい読み取りを、自分の読み取りに取り入れられるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取るべき最低限度の情報について、しっかりと押さえながら授業を進める。 ・教科書の単元から発展した内容の写真やグラフ、図表などを提示することで、興味・関心を高める。 ・期間を決めて授業はじめの5分間を確保し、県名・県庁所在地名や日本の周りの国の名前、世界の大陸・海洋の名前を正確に書けるように取り組ませる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・休校期間中に課題を出した、「情報」環境に関する定着が十分でなかった。 ・多くの情報の中から、必要な情報を選んで活かす指導が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報」に関しては、学級の時間や、総合的な学習の時間、安全指導の時間などを使って、情報リテラシーの指導を補う。「環境」に関しては、理科の学習の中で、単元の学習に関連付けて補う。 ・画像やグラフ、文献などから読み取れることを交流し、友達の優れた読み取りに触れる中から、情報選択の力を付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取り、自分の考えを表現する力を伸ばすため、ノートの取り方のよい例を紹介するなどして、学習の仕方を身に付けさせる。 ・年表を活用して、時代の流れを押さえると共に、歴史を扱ったテレビの場面や歴史上のエピソード、本などを紹介し、興味関心を高める。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 手指や具体物を操作しないと、たし算・ひき算（繰り上がり・下がりのなし）を正しく計算できない児童が約30%いる。 文章問題の意味を理解できず、正しく立式できない児童が約20%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを利用し計算カードを繰り返し練習する。 文章問題はキーワードになる言葉（あわせて、ちがいは）に着目させて考えるようにする。また、「わかっていること」「きかれていること」に分けて、下線を引く。 「3と7で10」「10は1と9」などを暗記しながら、10の合成・分解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードを使ってゲーム化して計算練習をする。 家庭学習の習慣化を図り、反復練習を大切にします。 学習課題の類似問題に取り組み、理解を定着させる。 日常的に、具体物（算数ブロックなど）や数字カードを使って計算する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのある足し算や、繰り下がりのある引き算になると間違えることが多い。数の概念を理解させることが必要である。 「長さ・かさ」「形」では、実感を伴った理解ができるように、実物を取り入れて授業を展開する。 文章問題を理解し、適切な立式を考えられるよう指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを活用し、過去の学習単元（特に足し算引き算や3つの数の計算）の反復練習をさせ確実な理解を図る。 文章問題では、絵や図、言葉、式などを用いて考えることに慣れさせる。 授業では、具体物を活用したりブロックや道具を操作したりすることによって、問題の場面を確実にイメージできるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 足し算や引き算でつまづきのある児童には、ブロックなどを使って問題を解決させる。 練習問題を解く段階では、習熟の高い児童に発展的な問題を準備する。 ケアレスミスをしないように、見直しの習慣をつけさせる。 かけ算九九を全員に習得させるため、九九検定を実施する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 3～4桁のたし算・ひき算、特に波及的に繰り下がるひき算で間違いが多い。繰り下がりの仕組みの理解や計算技能が十分とは言えない。 数直線の目盛りを正しく読むことが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムや家庭学習で、苦手分野の練習問題に取り組む。 繰り下がりの仕組みを半具体物を使って復習する。 計算したら、自分で確かめ算をする習慣を身に付けさせ、自分で間違いに気付けるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の指導で、下位層の人数を少なくするなどして丁寧に指導に当たれるようにする。 九九未習熟の児童には、習得するまで、家庭学習でくりかえし暗唱に取り組ませる。 ワークテストの間違い直しをさせ、後日もう一度同じテストを行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 商の立て方や計算の仕方は理解しているが、計算間違いが多い。 二等辺三角形の作図の理解が不十分。作図の線を消したり、コンパスの使い方間違ったりしている。 文章を読み取って立式する力が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解いた後は必ず確かめ算をするという習慣を身に付けさせ、間違いを直すよう指導する。 三角定規・分度器・コンパスを使って学習するときは、既習事項を確認してから取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムや家庭学習で、作図の練習問題や計算問題に繰り返し取り組む。 習熟度別の指導で、下位層の人数を少なくし、手厚い指導が受けられるよう調整する。上位層は応用問題にも取り組ませる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 中、下位層クラスの中では習熟が十分とは言えない。 四則計算の技能の定着が十分とは言えない。 文章問題において数量関係を十分に把握して立式する力の定着が十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムを使って、苦手な内容を中心に繰り返し取り組む。 文章題で数量の関係が捉えられるように、数直線や簡易図などを用いて理解できるようにしていく。 小数点を用いた計算について、授業や宿題などで習熟を図っていく。 授業の中で演習問題の追加補充として計算ドリルを活用すると共に、家庭学習としても活用し、習熟のための学習頻度を上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を捉え易くするために、数直線や簡易図などを提示して、分かり易い手立てに気付くようにする。 習熟度別の指導で、下位層の人数を20人以下とし、丁寧に指導に当たれるようにする。 自分や友達のことを発表することで、自分の思考の整理をしたり広げたりできるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算や公倍数や公約数の求め方など、児童への復習・定着が十分でなかった。 文章問題において数量関係を把握して立式する力も全ての児童に付いているわけではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数タイムや宿題などで、基本的計算や混合計算を行い、計算力の向上を目指す。間違った場合は、自分が間違っているのはどこなのかをしっかりと把握させるため、自分でしっかりと丸付けをさせる。 文章題で数量の関係が捉えられるように、数直線や簡易図などを用いて理解できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 間違った問題に対しては、友達同士教え合える時間を取る。ただし、答えを教え合うでなくやり方を教え合うことを徹底する。 進んでいる児童には、知的好奇心を刺激するような発展的課題を準備する。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な植物や昆虫に興味関心が高く、意欲的に飼育や観察をすることができた。 観察する時の視点を示したことで、観察するポイントが分かり、大きさを数値で表そうとしたり、形を何かに例えて表現するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物や昆虫を観察する時には、「色・形・大きさ」や「頭・むね・はら」など観察する視点を明らかにして観察カードを書くように指導する。 ICT教材を使い、観察した時には気付かなかった点を補充する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材で生き物の写真や動画を提示し、学びを広げる。 観察や実験の予想を立てさせて、考えを広げたり深めたりさせる。 理科支援員と連携し、児童の興味関心が高められるような実験、観察を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 植物が育つ過程を答える問題の正答率が53.1%で、区の正答率よりも14.3%下回っている。 昆虫の定義や完全変体・不完全変体の定着度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察した過程をファイルにとじていつでも見られるようにする。 季節と生物の単元では、毎季節ごとに発表会を設け、友達の観察した生き物について交流できる場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、興味をもった生物について調べて、まとめる機会を設ける。 長期休みにも観察を宿題にして、生物に触れる機会を増やす。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 5年生になってから学習した単元では、予想、考察の指導を意識した指導を行い、ワークテストでは、どの単元も平均80点以上の結果を得ている。しかし、学習した理科的用語、実験の方法などの基礎的な知識などの定着が十分でない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法を自ら考えさせるために、「何を」「何のために」探究するのか明確な目的意識をもたせる。 実験結果からの考察と結論付けへの思考の仕方を、友達との伝え合いの中で、深めていく。 実際に観察できなかったものは、ICT教材を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよい予想や考察の記述を提示、紹介して、互いに深め合えるようにしていく。 発展的な事象や知識の提示を単元の始めにすることにより、単元内容への興味・関心を高める。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 生物の成長や変化を継続的に観察、記録させる指導が不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に変化を観察させる学習では、児童に観察、記録させると共に、デジタルカメラ等を使って変化の推移を一望できるようにする等の工夫をする。 実際の観察が難しい単元では、ICT教材を活用して、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元終わりに、その単元の復習をし、ランダムに児童を指す活動を恒例化することで、児童に学習の定着を意識づける。 単元はじめに、児童の興味を引く事象を提示することで、単元内容への興味・関心を高める。